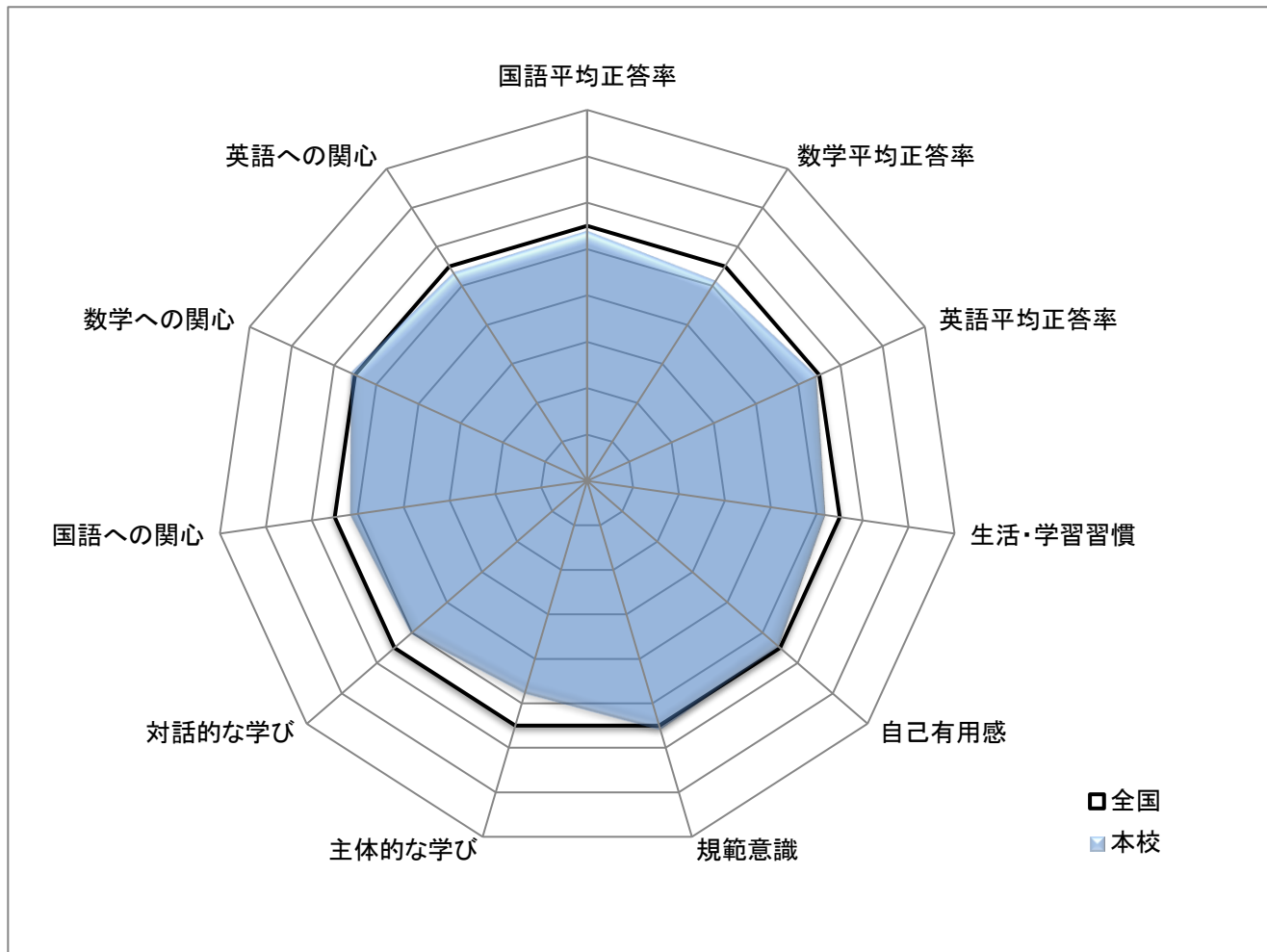


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

学習の重要性や必要性は理解しているものの、自ら学びに向かうことに難しさを感じている。そのため、自ら課題設定をしたり、既習事項を活用したり工夫したりして学習に取り組むことが苦手である。
 また生活面においては、規範意識が高く、困っている人がいたら助けようという思いやりの気持ちが強い。その一方で、規則正しい生活や学習習慣を身に付けることが課題である。

《授業改善のポイント》

調査結果から、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が必要であること、また「話し合い活動から、自分自身の課題に気付いたり、実践したりする力」の育成が課題であることがわかる。これらのことから、本校の学校経営方針に示している以下の4点に重点を置いた授業改善を進めていく。
 ①協働的な学びの実践（「学び合い」と「共有」と「ジャンプ」の授業デザイン）
 ②「深い学び」の研究（SDGs・ESD、現代社会の課題、生活場面等を取り入れた単元や授業）
 ③1人1台端末の有効活用
 ④探求型の学習過程を重視した授業デザイン

《チャートの特徴》

全体的には都の平均に近い形ではあるが、学習に関しては「主体的・対話的で深い学び」の観点から課題であり、生活においては、規則正しい生活習慣や学習習慣の確立が課題であることが明らかとなっている。この課題を克服することによって、学力も身に付き、より深い学びに向かう課題意識をもった生徒に成長することが見込まれる。
 一方で、人を思いやる気持ちや自己有用感が高いところは本校生徒の誇りである。したがって、その良さを更に伸ばし、活躍の場を広げられるような支援をしていくことが重要である。

《家庭・地域への働きかけ》

本校で実践している「夢をかなえる習慣づくり」の結果や事前事後アンケート結果を学校だよりやホームページで公表することで本校生徒の実態を知っていただく。また、本校生徒の良さを更に伸ばすため、保護者協力のもと、地域ボランティアへの積極的な参加をしている。